

## 令和2年度第3回赤磐市行財政改革審議会議事概要

日時：令和3年1月6日（水）午後1時30分開会 午後2時20分閉会

場所：赤磐市役所 2階 大会議室

傍聴人：0人

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 市長挨拶
- 4 協議内容

### (1) 第4次行財政改革大綱（案）について

事務局：資料1を用いて、パブリックコメントのご意見6件に対する市の考え方について説明。

資料2と3を用いて、前回審議会のご意見を反映した第4次大綱（案）について説明。

会 長：パブリックコメントはどのような方法で実施したのか。

事務局：市の広報紙の配布日に合わせて12月18日からスタートし、1月4日まで行った。

各支所と本庁担当課の窓口に、閲覧用の大綱案と意見提出様式を置いて受け付けたほか、市のホームページにも窓口と同じものを掲載し、いつでも受け付けられるようにしていた。

6件のご意見も市のホームページからいただいた。

会 長：デジタル社会に対応した方法でよかった。

前回のご意見を反映した後、パブリックコメントを行い、ようやく案がまとまった。

これまで数回にわたって議論いただき、事務局とも何回も打ち合わせをしてまとめたこの案で決定してよろしいか。

（ 全員同意し決定 ）

委 員：決定したということで2点お伝えしたい。1点はデジタル化やITの活用について、国の方針やソフトの関係もあるので、先に先にとやってもいけないが、一朝一夕にすぐできないので、市としての訓練や勉強、国からの専門家派遣の活用など、移行準備を早めに進めた方がいい。もう1点は、パブリックコメントでたくさん意見が出ていた広報の仕方について、紙にしても、ツイッターにしても、一方的に出すだけではなかなか受け止めていただけない可能性が高い。積極的に考えるならば、例えば、座談会のように、地域や団体ごとに職員が出て行って意見を聞き、市の考え方を遠慮せずに伝えるようなことをしてはどうか。参加意識があれば、かなり興味を持っていただけ、市の考えをはっきり伝えると、「そういうことでできなかったのか」とか、「我々がこうしたらできるんだな」とか、盛り上がり理解していただける。興味を持っていただくことがまず一番だと思う。テスト的にやってみるのも、住民との信頼関係を高める上で良いのではないか。市の職員の勉強にもなる。

会 長：大綱ができあがったら、実行に移すにあたって、市民に内容を伝え理解して協力していただくためのプロセスが必要になる。伝えることと伝わったことは違う。市の思いを伝えるためには、

face to face で共感の持てるコミュニケーションが効果的・効率的で、非常に重要になる。

## (2) 答申について

事務局：答申（案）について、会長と調整し、特筆すべき点について盛り込んだ案である旨を説明。

会 長：ご意見がないようであれば、この内容で市長にお渡ししたい。

（ 全員同意し決定 市長へ答申書を読み上げ伝達 ）

会 長：大綱の履行に特に有効なことは、まず、「まちづくりは人づくり」ということで、職員をはじめ地域の人づくりを十分にさせていただきたいということ。さらに、これからの社会はデジタル社会で、効果・効率を上げるためにはデジタルをいかに普及させるかが問われ、いち早く市の情報を伝えたり、市民の情報をキャッチしたりするために有効な手段なので努力をお願いしたい。そして、行財政改革はあくまでも手段であり、目的、目標、夢をしっかりと掲げたうえで、そのための行財政改革であるということをご位置付けていただきたい。この答申にあたっては数回にわたって貴重なご意見をいただいた。これらが我々の意見であり、この大綱を市一丸となって取り組んでいただくことをお願いして答申とする。

市 長：会長をはじめ委員の皆様から本当に気持ちのこもったご意見をいただいた。この大綱に従って、まだまだこれから、たゆまぬ努力と心を通じた行革を心掛けて推進を目指していきたい。

会 長：今回は、任期最終の審議会となるので、それぞれ一言ご意見や感想をいただきたい。

委 員：厳しい意見を色々と言ったが、赤磐市を思っていること。

- ・我々の様々な意見が、丁寧に受け止められ、大綱の中にまとめられている。
- ・大綱ができればこれからのスタート。目標達成に向けてこれからも頑張ってもらいたい。
- ・大綱ができた後どうやって実行していくのかという実施計画もしっかり作ってもらいたい。
- ・コロナ禍の中で想定外の事もこれから多々起こりうる。特に歳入や歳出に関しては厳しい状況も続くのではないかと。この厳しい向かい風の状況でも舵取りをしっかりしてほしい。
- ・今は、コロナで将来のことがどうなるのかと不安でいっぱいの人が多いと思うので、「赤磐市に住んでいれば何とかなる」というようなまちになったらいいなと思う。
- ・自分が住んでいるエリアがちょっとでも良くなるという思いで町内会の役員をしていると町内活動が結構楽しいので、地域のコミュニティーや町内会と「お互い楽しいまちにしようよ」という感じで行財政改革をすれば上手くいくのではないかと。思う。
- ・先日、新しい足指体操の研修を受けさせてもらった。コロナ禍において皆が「しゅん」となっていたところ、集まることでいきいきして、活力全開・やる気満々になっている。担当職員の「地域と繋がって皆をしっかり支援していこう」という前向きな姿勢が伝わってきて、「よし、頑張ろう」という気持ちになり心強かった。これからも、百歳体操で地域の皆さんの居場所を作って、「足腰達者で百までも」ということに皆と取り組み、幸せな赤磐市にしていきたい。

会 長：これからのまちづくりは、「楽しさ」がキーワードになるだろう。楽しく働ける、楽しく色々な活動ができるということは、幸せである。友達がいたり、趣味があったり、社会に役立つボラ

ンティア活動があったり、そういった楽しさをどうやって作っていくか。やはり、人の役に立つということが楽しいということに繋がると思う。

まちづくりとは、市民の楽しさを作ることだと思っているので、赤磐市が、県内或いは全国で一番楽しいまちになって欲しいと願っている。そのために、この行革が、手段として役に立つということがあれば、我々としてもこの上ない幸せだと思う。今後とも一番素晴らしいまち、楽しいまちをつくっていただければありがたい。

## 5 その他

事務局：平成30年度から3年間、委員の皆様のご協力により、大変有意義な審議会を開催することができました。本当にありがとうございました。

## 6 閉会